

シリーズ8

「流れ」でおさえよう！

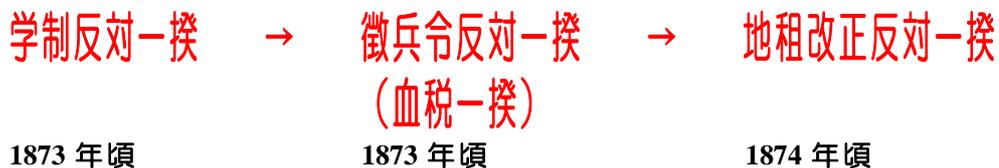
本日の特集は「明治時代」です。明治初期は激動の時代なので、様々な改革が実施され、それに反対する一揆や乱が続発します。また、自由民権運動が大きく発展すると、政府はそれを抑え込もうと様々な法令を出し、運動を弾圧しました。一方、運動が鎮火した後、国会開設や憲法制定などに向けて、政府も改革を断行していきました。

日清戦争・日露戦争前後には、不平等条約の改正にも成功し、日本の国際的地位が向上します。また、その背景には、イギリスの対日外交政策の変化もありました。日本は欧米列強諸国と肩を並べるまでになります。

とにかく、「流れ」をおさえましょう。大切なのは、ポイントになる歴史的事項を中心に「ビフォー」「アフター」をつかむことですよ。

第10回 明治時代

<明治時代初めの一揆>



1872年8月に学制が制定され、これに反対する一揆が発生しました。また、1873年1月に徴兵令が布告されますが、これに対しても一揆が起きます。さらに、1873年7月に地租改正条例が制定されましたが、またも一揆が発生します。特に1876年には農民の一揆だけでなく士族の反乱が相次ぎました。

1876年の一揆については、茨城県と三重大一揆（三重県・愛知県・岐阜県・堺県）を覚えてください。地租改正反対一揆の結果、1877年には地租は3%から2.5%に引き下げられまし

たね。

このことを、当時の人々が歌にしています。どんな歌でしょうか？

そうですね。

「竹槍で ドンと突き出す 2分5厘」

でしたね。

<明治6年の政変前後の流れ>

明治6年の政変 1873年 → 民撰議院設立建白書 1874年提出 → 讒謗律・新聞紙条例 1875年公布

征韓論争で敗れた征韓派の板垣退助・江藤新平・西郷隆盛・副島種臣・後藤象二郎が下野したのが明治6年の政変です。

その後、東京で板垣退助らが愛国公党を結成し、民撰議院設立建白書を左院に提出します。これは受け入れられなかったため、土佐で立志社、大阪で愛国社を結成するなど運動が盛り上がっていきます。

そのため、政府（大久保政権）は一方で大阪会議を開いて反対派を懐柔します。この時、参議に復帰した人物は誰でしたっけ？ また、この時出された詔は何でしたか？ さらに、この時、設置が約束された国家組織・機関は何でしたか？

参議に復帰したのは板垣退助と木戸孝允でした。また、漸次立憲政体樹立の詔も発布されました。さらに、元老院・地方官会議・大審院の設置を約束します。しかし、他方で讒謗律や新聞紙条例を公布して運動を取り締まっていきました。

<不平士族の反乱>

佐賀の乱 1874年 → 敬神党（神風連）の乱 1876年9月 → 秋月の乱 1876年10～11月 → 萩の乱 → 西南戦争 1877年

征韓論争に敗れ下野した元参議江藤新平を迎えて蜂起したのが佐賀の乱です。

太田黒伴雄ら旧熊本藩士が廃刀令など新政府の政策に反対して蜂起したのが敬神党の乱です。宮崎車之介ら旧秋月藩士が敬神党の乱に呼応して拳兵したのが秋月の乱です。元参議前原一誠を首領として旧長州藩士が秋月の乱に呼応して拳兵したのが萩の乱です。

そして、最後にして最大の不平士族の乱が西南戦争です。旧薩摩藩士3万が元参議西郷隆盛を指導者として蜂起しました。これら、不平士族の反乱はすべて新政府の武力によって鎮圧されてしまいます。

5つの事件をバラバラに覚えるのではなく、「元参議」が関わっている事件が3つありますから、整理してくださいね。また、佐賀の乱が起きた理由は征韓論争に敗れたからですが、残りの乱は新政府の実施している廃刀令などに反対して起きていますよ。確認してくださいね。

< 激化事件の推移 >

福島事件 → 加波山事件 → 秩父事件 → 大阪事件
1882年 1884年 1884年 1885年

まず最初に起きたのが、福島事件でした。薩摩出身の**県令三島通庸**は農民の労役による三方道路の建設を計画しますが、これに反対した農民を支援した福島**自由党**の**河野広中**らを検挙し、弾圧しました。

1884年9月に起きたのが、加波山事件です。**県令三島通庸**らの暗殺を計画していた自由党員16名が、茨城県の加波山で蜂起しました。これを受けて**自由党は解党**します。

1884年10月から11月にかけて起きたのが秩父事件です。秩父地方を中心に養蚕農家が松方デフレによる繭価下落の打撃を受けて困窮します。彼らや自由党員が借金の延納や減税を求めて武装蜂起しました。**困民党**の農民約3000人が郡役所や警察などを襲撃したのです。最大規模の激化事件になりました。

1885年11月に起きたのが、大阪事件です。壬午軍乱や甲申事変で朝鮮における親日派の後退を見た**大井憲太郎・景山英子**らが独立党の政権を樹立しようと計画しました。事前に発覚して130人あまりが逮捕されました。

< 明治14年の政変前後の流れ >

国会期成同盟の結成 → 集会条例の公布 → 明治14年の政変 → 国会開設の勅諭
1880年 1880年 1881年 1881年

愛国社第4回大会で国会期成同盟と改称します。片岡健吉らが中心となり国会開設請願書を提出しますが、太政官は受理しませんでした。

一方、政府は集会条例を作り、民権派の言論・集会・結社の自由を制限して運動を取り締まります。政府部内では、議会開設に対して**即時開設を主張する大隈重信**と**時期尚早と考える伊藤博文**が対立していましたが、**開拓使官有物払い下げ事件**を契機に対立が激化してしまいます。その結果、払い下げは中止になり、国会開設の勅諭が出されますが、大隈は政府から追放されてしまいます。

しかし、1890年に議会を開設することが約束されたので、1881年に**板垣退助**が**自由党**を、翌年**大隈重信**が**立憲改進黨**を、そして福地源一郎が立憲帝政党を作ります。

< 軍部大臣現役武官制の変遷 >

山県有朋内閣制定 → 山本権兵衛内閣改正 → 広田弘毅内閣復活
1900年 1913年 1936年

日本史上初めての政党内閣がわずか4ヶ月で崩壊した後に総理大臣になったのが、山県有朋でした。憲政党の支持でできた第2次山県有朋内閣では、陸軍大臣・海軍大臣を現役の大將・中將に限定する軍部大臣現役武官制が採用されます。ちなみに、1899年には政党勢力の進出をおさえるため文官任用令を改正しました。

大正政変で第3次桂太郎内閣が潰れた後に登場した山本権兵衛内閣は、立憲政友会の協力を得て、陸軍・海軍大臣の任用資格を予備役・後備役まで拡大するように改正します。実質的には軍部大臣現役武官制を廃止しました。また、文官任用令も改正しました。

しかし、昭和に入って二・二六事件の直後に成立した広田弘毅内閣は軍部大臣現役武官制を復活させます。これは、事件の後で実権を握った陸軍統制派が広田弘毅内閣に迫って復活させたと言えます。なお、日独防共協定が成立したのもこの内閣でした。

<選挙人資格（直接国税）の変遷>

15円以上 → 10円以上 → 3円以上 → 制限なし
1889年黒田内閣 1900年山県内閣② 1919年原内閣 1925年加藤高明内閣

まず黒田清隆内閣で衆議院議員選挙法が制定され、選挙人資格は満25才以上の男子で、直接国税15円以上納入者と決められました。その後、第2次山県有朋内閣で選挙法の改正があり、納税資格が10円以上へと引き下げられました。

さらに、大正時代に入り原敬内閣で納税資格が3円以上に引き下げられますが、普通選挙は認められませんでした。第2次護憲運動の高まりのなかで、やっと、1925年「護憲三派内閣」が納税資格を廃止し、25才以上の男性だけが普通選挙制度が実現することになりました。

<不平等条約改正に関わった外務大臣の推移>

岩倉具視 → 寺島宗則 → 井上馨 → 大隈重信
伊藤博文内閣 黒田清隆内閣
→ 青木周蔵 → 陸奥宗光 → 小村寿太郎
山県有朋内閣 伊藤博文内閣② 桂太郎内閣②

1871年11月に出発し、1873年9月に帰国したのが岩倉具視使節団でした。特命全権大使岩倉具視を中心に、ワシントンで不平等条約の予備交渉に入りましたが不調に終わりました。

次いで、寺島宗則外務卿は関税自主権回復を目指し、アメリカと交渉し日米関税改定書の調印をしましたが、イギリスとドイツに反対され、無効となってしまいます。

その次が、井上馨外務卿（のちに外務大臣）です。関係諸国を一堂に集めて交渉する方式をとり、舞踏会を開催するなど鹿鳴館外交を展開しました。また極端な欧化主義政策を進めます。しかし、外国人判事の採用案に関して法律顧問のボアソナードや農商務大臣の谷干城らの批判や三大事件建白運動などにより辞任し、改正交渉は中止になります。

井上外務大臣の後を継いだのが、大隈重信です。民権派から外務大臣に抜擢されたのです。内地開放、協定税率の引き上げなどを規定した改正案で、国別に秘密交渉を始めます。大審院への外国人判事任用問題で反対運動が高揚し、また大隈自身が**玄洋社のテロに遭い**、負傷辞任し、まともな改正交渉は中止になります。

ここで登場したのが長州出身の青木周蔵外務大臣です。それまで最も条約改正に反対していたイギリスが、ロシアとの対立から交渉に応じるようになってきます。条約改正交渉は順調に進み、治外法権で合意します。ところが、**大津事件が勃発**します。青木周蔵は責任を取り、辞任せざるを得なくなり、交渉は頓挫してしまいました。

大津事件の際、担当判事をつとめ、司法権の独立を守った人物は誰でしょう？

大審院長児島惟謙でしたね。日本政府が**ニコライ皇太子**を傷つけた警察官に対し大逆罪で死刑にしようとしたのですが、大逆罪は日本の皇室に適用されるものとして通常の謀殺未遂罪を適用し、犯人は無期徒刑になります。

次いで、紀州出身で海援隊にも所属した陸奥宗光外務大臣が登場します。1894年、**日英通商航海条約の調印**を実現し、**治外法権の撤廃**に成功しました。

最後に登場するのが宮崎出身の小村寿太郎外務大臣です。1911年、**日米通商航海条約の調印**を実現し、**関税自主権を回復**し、不平等条約の撤廃に成功します。この結果、日本の国際的地位の向上がはかられ、ロシア・ドイツの東アジア進出を警戒したイギリスが対日外交を軟化させていきます。

ところで、小村寿太郎はある条約締結に際して日本全権を担っていました。では、**この条約を何と言いますか？ また、何という戦争の講和条約でしたか？ 仲介した人物は、どの、誰でしょう？**

答えは、**日露戦争の講和条約、ポーツマス条約**でしたね。アメリカ合衆国大統領**ローズヴェルト**でしたね。